

思考力・判断力・表現力を問う条件付記述式問題について（たたき台）

1. 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とそれらを評価する方法のイメージ例（たたき台）について

- 「知識・技能」を問う問題については、解答が特定されるため、「多肢選択方式」や「穴埋め式」などにより実施することができる（【別紙 2 - ①】図の左下の領域）。
- 一方、「思考力・判断力・表現力」を問う問題については、①個別選抜になじむ問題（右上の領域）と、②共通テストになじむ問題（中間の領域）があると考えられる。
- ①については、各大学の教育理念や方針に応じた評価を含め、「解答の自由度の高い記述式」あるいは「小論文」の形式で実施することが考えられる。
- ②については、例えば、設問で一定の条件を設定した上で、それを踏まえて、結論や結論に至るプロセスを解答させる「条件付記述式」の形式で実施することができるのではないかと考えられる。（国際学力調査の PISA 調査などでも実施されている。）
- ②については、多肢選択方式や穴埋め式などでも出題は可能であるが、記述式問題を出題することには、下記 2 に記す意義があり、また、高等学校教育における学習に好影響を与えることも期待できることから、下記 3 に記す条件設定の考え方などについて、引き続き検討を重ねていくことが必要。

2. 記述式問題を出題する意義について

- 解答を選択肢の中から選ぶのではなく、自らの力で考え出すこととなり、より主体的な思考力・判断力の発揮が期待できる。
- 思考のプロセスが、文や文章の作成を通じて自覚的なものとなることにより、より論理的な思考力・表現力の発揮が期待できる。
- 記述による表現力の発揮が期待できる。特に、文や文章の作成に当たって、目的に応じた適切な表現様式を用いるなど、より適確な表現力の発揮が期待できる。

### 3. 思考力・判断力・表現力を問うための条件について

- 記述式問題を出題するに当たっては、自由記述方式でなく、条件付記述式により採点可能性を高めることが必要となるが、条件設定に当たっては、思考力・判断力・表現力を問う上で有効なものとするのが望まれる。

#### (思考力・判断力について)

- 思考力・判断力を問うためには、問題に対する解答が正しいかどうかだけではなく、問題に対して解答するうえでの思考のプロセスが適切に遂行されているか否かがポイントとなる。
- このため、解答を自由に記述するのではなく、例えば、あらかじめ結論（複数の場合もある）を設定したうえで、結論を導き出した理由、結論を導き出す思考のプロセスを説明することを条件とすることなどが考えられる。
- 結論を導き出す思考のプロセスについては、現在別途検討を進めているが、例えば、①問題の理解、②情報の統合、③解決方法の探索、計画立案、④考察過程や考察結果の吟味といった思考のプロセスが適確に行われているか、それぞれの要素を個別に問うことや全体の流れを説明できるかを問うことが考えられる。
- 特に、②情報の統合や③解決方法の探索、計画立案のプロセスが重要であることから、その際に求められる、情報の比較、分類、関連づけ、推論、仮説の形成等について、適確な理解や操作が行われているかを問うことも重要と考えられる。

#### (表現力について)

- 思考のプロセスを適確に遂行していくためには、記録、要約、説明、描写、論述、作図など、事実と思考の違いに応じて適切な表現様式を用いることが求められる。
- このうち、説明については、例えば、事実や事柄、方法を具体的に説明することや、手順や理由を論理的に説明することなど、適切な表現の仕方を考えて書くことなどが求められる。
- また、論述については、目的に応じた文章の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめることなどが求められる。